

北海道スポーツ少年団広報

—Quality of Life—

平成18年3月発行

〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1
北海道立総合体育センター内
財団法人北海道体育協会
北海道スポーツ少年団本部長 島中 貞夫
TEL011-820-1707 FAX011-833-0705

広報紙の発刊に当たって

北海道スポーツ少年団広報普及部会 部会長 秋野 優

北海道スポーツ少年団は、各種事業や市町村少年団活動及びリーダー会活動等を少年団指導者を始め関係各位に紹介し、少年スポーツの普及振興に資することを目的に広報紙「Quality of Life」を発刊しています。

少子化による児童生徒数の減少等により北海道の団員数は若干減少いたしましたが、道内最大の青少年団体として53,995名の団員が様々な活動に取り組んでおります。

今回は、北海道スポーツ少年団の各種事業や派遣団員の体験記等を掲載いたしましたが、この広報誌がスポーツ少年団の普及と各種活動の啓蒙・啓発として、団員や指導者の確保、組織の拡充と登録の促進が図られるよう期待しております。

最後に、この広報紙を通して市町村の教育・文化・医療・福祉施設等あらゆる施設で、多くの道民がスポーツ少年団を身近に感じることができるよう関係各位の一層のご協力をお願い申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

第32回日独スポーツ少年団同時交流

ドイツの若者たちをもっと知りたい

北海道グループ 塚 田 秋 美

念願の日独スポーツ少年団同時交流に参加し、私は予想していたよりも沢山のものを得てきたと思います。ハードスケジュールの中、深く見ることや聞くことができなかったことがあったのは残念でしたが、その中でも最大限に多くのものを見聞きすることができたのではないかと思います。

一番印象に残ったのは旧東と旧西での若者のあり方の違いでした。コットブスでは、両親や両親と同じ年代の大人たちの意見が絶対で、その人たちに若者が意見をすること自体をためらうのが自然であると、知り合った若者たちは口を揃えています。それがスポーツ活動の中でも少なからず影響を与えていることが、ディスカッションでも解り、安易にこうしたらいいのではという意見が通るものではないのであると痛感させられました。旧東ドイツの地域では昔の日本を彷彿させるものが、人間関係の間に根強くあることを強く感じました。逆にベルリンでは現在の日本を垣間見たような気がします。若者は、積極的で、はつらつとしており、自己の意見をしっかり持っているけれど、常に大人と自分の対等に見ることをよとしている場面が沢山見られたように感じました。



新しい意見を取り入れることは良いとしても、暴走したときにそれを制止する先輩の意見としての大人の力は本当にあると言えるのか、そこまでは見ることは出来ませんでした。更にドイツの現状を知りたいと思えた点でした。昔の日本と今の日本が同居しているような国内情勢にとっても不思議な感覚を覚えました。

第19回全国中学生ウエイトリフティング競技選手権大会に参加して

「全国の中学生と戦ってきました。」

士別南中学校3年 寺 島 慎太郎

8月21日に茨城県石岡市で行われた「第19回全国中学生ウエイトリフティング競技選手権大会」の58kg級に出場しました。

結果は、スナッチ63kg、ジャーク65kg、トータル128kgで、1位という最高の結果で終わることができました。しかも、スナッチとトータルで北海道中学新記録を更新することもでき、本当に良かったです。今回の大会では、とても調子が良く、アップの時からコーチに「今日は良いね。」と言われました。

そして自分の競技が始まり、スナッチでは55kg、60kg、63kgと全部成功し、ジャークでも60kg、65kgと成功しましたが、70kgで失敗してしまいました。

でも結果的に優勝できたので良かったと思っています。

あと、ロークリーンが少し苦手なので、そこを頑張っていきたいと思っています。

ご声援ありがとうございました。



- ※ スナッチとは・・・試技のうちのひとつ。手幅がジャークよりも広く、一気にバーベルを持ち上げるのが特徴。
- ※ ジャークとは・・・クリーンで肩にのせたオモリを頭上に持ち挙げること。ここで肘が曲がっていたりすると失格。

サッカー大好き少年たちと一緒に汗を流して・・・

「サッカー大好き少年たちと一緒に汗を流して・・・」

サフォークランド土別サッカースポーツ少年団

団長 吉 倉 司

サフォークランド土別サッカースポーツ少年団は、スポーツの原点である「遊び」「楽しむ」を基本に、サッカーが楽しめるスポーツであるということを真に求めるとともに、基礎技術の習得と、創造力のある個性豊かな選手づくりを目的にとして、1980年に設立されました。

現在は、2年生から6年生まで70名が週3回、すばらしい芝生の天塩川サッカー場で、さわやかな汗を流しています。

毎年32チームが参加して土別市で開催される、サフォークランド土別カップ少年サッカー大会では、地元のチームとして参加し、愛知県三好町、静岡県裾野市や全道各地のチームと試合を通じて交流を深めています。また、コンサドーレ札幌観戦ツアーや愛知県三好町の家庭にホームステイしながらの交流試合も計画されています。

サッカーを通して自主性・創造力を養い個性を伸ばし、サッカーを「大好き」にさせ、生涯サッカーマンを育て「豊かな心」「まちづくり」さらには未来ある子どもたちを育てることができればと考えています。



「第35回北海道スポーツ少年大会ー イン 根室」

「少年大会の思い出」

恵庭剣道スポーツ少年団

櫛 田 邦 仁

僕が北海道スポーツ少年大会にきて、楽しかったことが4つあります。

一つは自由時間の時のバスケットボールです。色々な友達をつくることができました。それに、少しバスケットボールができるようになり、シュートが結構入るようになりました。

二つ目は友達ができたことです。最初に電車の中で他の石狩の人に来て、自己紹介をしました。電車の中では、あまり話をしなかったけれど、根室市青少年センターについたら、バスケットボールをやって仲が良くなりました。班の友達に、あだ名を覚えてもらいました。

三つ目は、根室自然の紹介の時の授業です。自然(春国岱)を知ってもらうためにクイズを出してくれたり、春国岱の生き物や植物を教えてもらいました。知ったことは、タンチョウが間違って釣り用のおもりやリングプルを食べてしまうことがわかりました。

四つ目は、班旗づくりです。班旗を作っているとき、絵をうまくかくことができました。

班旗発表の時、6班のイカポッポーがおもしろかったです。上げたのは4つでしたが、他にも色々楽しいことがありました。



第 27 回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

全国大会の試合のこと

恵庭市島松ホッケースポーツ少年団 福 沢 拓 巳

鳥取で8月5日から8日まで全国大会がありました。僕は初めての全国大会でした。

試合の最初の相手は、朝日南でした。最初の試合はドキドキしました。僕は試合の先発ではありませんでした。朝日南の試合に出ましたが、5対0で負けました。ちょっとくやしかったです。次の試合は一方井が相手でした。この試合も、出たけれど負けました。次の試合は木崎野でした。この試合は一度も試合に出られませんでした。1対1なのでペナストになりました。ペナストの結果は負けました。何度も負けてくやしいと思いました。次の試合の相手は、若葉でした。この試合に負けたら、もう大会は終わりなので、勝ちたいと思いました。若葉との対戦の時、ぼくのチームの人が顔にボールが当たりました。それで僕が交代しました。それで1対1で引き分けでした。ペナストの時はだいき君とけいすけ君がペナストをやりました。ペナストの結果は勝ちました。僕も今度はやりたいです。やっと1勝しました。その時はうれしかったです。このまま勝ち進みたいと思いました。フレンドリーだけど優勝したいと思

いました。準決勝の相手は大谷でした。試合を見ててドリブルがうまいと思いました。試合は負けててちょっとしか時間がなかったけれども、交代しました。ミスはダメと思ったけれどパスのきた玉をとれなくてミスをしてしまいました。くやしかったです。試合の結果は5対1で負けてしまいました。

全国大会では、ぼくは1点もいれませんでした。決勝前に負けてしまいました。本当はできれば決勝まで行きたかったです。

鳥取では北海道より暑かったです。今度は、全国大会で優勝したいので、たくさん練習して、試合に出れるように頑張りたいです。



北海道のスポーツ少年団へのメッセージ

「少年団員に期待すること」

スピードスケート元オリンピック代表選手
(北海道スポーツ少年団活動開発部会員)

堀 井 学

北海道のスポーツ少年団の皆さん、こんにちは。

私は、以前スピードスケートをやっていた堀井学です。

小学4年生から中学3年生までスケート少年団で活動していました。子どもの頃の夢は、日本代表のオリンピック選手でした。今、振り返れば、私の夢の実現には、スケート少年団の活動あつての私と、少年団に感謝しています。

スケートを教えてもらうだけでなく、スポーツを通して人間教育をして頂いたと感じています。たくさんの仲間、素晴らしい恩師に囲まれていたからこそ、スケートを好きになり、もっと速くなりたいという、気持ちを高められたと思います。私は子どもの頃から、速かったわけではありませんでしたが、スケートが大好きだという気持ちは、誰にも負けなかったと思います。

北海道の少年団の皆さん、夢を持ち、目標を持ち、自分を信じて挑戦してください。決して諦めない気持ち、感謝の気持ちを大切に、スポーツからたくさんのことを学んでください。

心に思い描いた夢は必ず実現する。 _____



「北海道リーダー会ってこんなことしてます！」

北海道スポーツ少年団専門部会・広報・普及部員
(元リーダー会会長) 惣 領 智 人

北海道スポーツ少年団リーダー会（以下「リーダー会」という）は、全道各地のスポーツ少年団員で高校生以下22歳までのリーダーが集まり、リーダーとしての資質の向上を図っています。そして、将来の指導者となるための大切なことを学べる場でもあります。しかし、残念ながらリーダー会の存在は、まだ一部の指導者・団員にしか知られていないのが事実です。

リーダー会では、北海道スポーツ少年団の各種事業での運営補助や、自主研修などの主催事業では、自分たちで内容を検討しながら事業を実施しています。その中からリーダーとしての大切なことを学んでいます。そして、そこで学んだことを、所属する市町村や単位団に持ち帰りそこで実践しながら経験を重ねています。

リーダー会としては、いずれは単位団の指導者として活動していただけるような人材の育成をすることが、この会の役割だと考えています。

しかし、現在のリーダー会はどうでしょうか。そこまでの役割を果たしているとは言えないのが現状ではないでしょうか。

それでは、何が原因でそれらの問題が起きているのでしょうか。一つには、リーダー会に対する北海道スポーツ少年団の責任体制が不明である点（リーダー会は設置規定等で明確にうたわれていない等）、リーダー会の育成を事務担当者が担っている。もう一つは、リーダー会を独立色の強い団体として設立させたこと等が原因となっているのではないのでしょうか。

それで、このような問題を解決しながらリーダー会を育成していくためには、私を含めたリーダー会のOBや、北海道スポーツ少年団の役員の方々などと協力してリーダー会を育成していかなければいけないものと思います。そして、リーダー会自身が活動や現状をどのように変えていくのかを、十分話し合っていくことが大切だと思います。

最後に、リーダー会をうまく育成することは「団員→リーダー→指導者」というスポーツ少年団活動の良い循環がシステム化されることであり、それを定着することで、今後のスポーツ少年団活動の発展充実に繋がっていくことだと思います。

事務局だより

全国競技別交流大会が北海道で開催されます

今年、バレーボールと野球の全国交流大会が北海道で開催されます。全国バレーボール交流大会は、3月26(日)～29日(水)北海道立総合体育センター・道立野幌運動公園総合体育館を会場に男子10チーム、女子48チーム、約800名の選手が参加して実施されます。北海道からは、男子は江別中央ジュニアバレーボールスポーツ少年団と厚別北ジュニアバレーボールスポーツ少年団、女子は釧路新川バレーボールスポーツ少年団と江別中央ジュニアバレーボールスポーツ少年団が出場することが決まっており、全国大会での活躍が期待されます。また、8月には全国各地から16チームが参加して全国軟式野球交流大会が札幌市で開催されます。道内の野球スポーツ少年団の皆さんも、出場を目指して頑張ってください。なお、決勝戦は札幌ドームで行う予定です。

この大会に関する問い合わせは、下記のところにお電話で！

(問い合わせ先) 財団法人 北海道体育協会 生涯・少年団スポーツ課 電話 011-820-1707

平成17年度北海道スポーツ少年団登録状況について

	市町村数	団数	団員数	指導者数	
				単位団	役職員
H17	199	2,357	53,995	9,591	848
H16	206	2,344	54,534	9,561	848
前年対比	△7	13	△539	30	0
全 国	2,046	35,974	937,166	194,704	17,333

平成18年度北海道スポーツ少年大会は胆振管内洞爺湖村で予定しております。是非、多くの皆さんが参加してくれるのを待っています。

事務局員

生涯・少年団スポーツ課長 山口 淳一

主幹 鎌田 英樹

主事 横山 環

主事 近藤こずえ

担当 小谷 洋一

担当 工藤恵美子

が担当しております。よろしくお願いします。

北海道スポーツ少年団のホームページについて

少年団に関する情報が盛りだくさん掲載されています。どんどんアクセスしてみてください。アドレスは、下記のとおりです。

<http://www.phoenix-c.or.jp/~hasa/>

